

中学生の「税についての作文」

大木町長賞

税金の大切さ

大木町立大木中学校

三年 亀崎 明 彩

みなさんにとって「税」とはどのようなイメージだろうか。私はなんとなくマイナスなイメージを持っていた。しかし、ある経験を通して「税」に対するイメージはプラスへと変わっていった。

夏休みに入る前、「おおきDEくらし応援券」というものが家に届いた。開けてみると、一人五千円分の応援券が入っていた。これは、円安に起因する物価高騰で打撃を受けている地域経済と町民の生活、暮らしを支援するためのものであった。つまり、大木町に住んでいる人と、大木町で働いている方の両方がこの応援券により生活の負担を軽減することができているのである。

しかし、この応援券に一つ疑問がある。応援券のお金はどこから来ているのか、ということである。一人五千円というのは町全体となると、かなりの金額になるため、町が出しているとは思えない。また、生活に困っていない人など、まれだと思うので、その方たちが出しているとは思えない。こんないろいろなことを考えているうちに、結論が出ないことに気付いた私は、大木町の広報新聞を読んでみることにした。

すると、大木町の今年の予算というものを題に、税についての詳しいことが書かれていた。大木町で税が使われているものとして、子育て支援の民生活費、学校教育や社会教育のための教育費等があった。次に町民が町に納めなければならぬものとして、大木町に住んでいる人が支払う町民税、家や建物に対して支払う固定資産税等があることを知った。私はこれまで「税」には無関係だと思っていたが、大木町は病院にかかった際の医療費を全額町が負担していることを知った。それから、私は大木町に感謝し、健康を保っていきたいと思った。

このように税とは、たくさんの種類があり、かなりの金額を支払うことになる。また、少子高齢化が進んでいる現代では、若い世代の方が重い税を負担していくことになる。しかし、税を納めることで、私たちが生活に困っている時に、応援券のようになり、私たちの生活を支えてくれるのである。

みなさんは貯金をしたことがあるだろうか。貯金は自分が困った時や何か欲しい物を買う時などに使うと思う。税もそれと同じである。国や自治体は国民が困った時のために国民から税を集めて貯金をしているのである。だから、自分を含めた、周りの人を助けるための大きな貯金として、税を納めてほしい。

私は身近な、「おおきDEくらし応援券」を通して、税についての詳しいことを知ることができ、本当によかった。